

Bill

McCarthy助教授(ビクトリア大学、カナダ)のアポイントメント・プログラム招請について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学国際交流センター 公開日: 2010-03-09 キーワード: 作成者: 沖田, 哲也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/8051

X Bill McCarthy 助教授 (ビクトリア大学, カナダ) の アポイントメント・プログラム招請について

政治経済学部教授 沖 田 哲 也

まえがき

マッカーシー助教授 (McCarthy, Bill) はカナダ・ブリティッシュコロンビア州の州立ヴィクトリア大学社会学部において、主として青少年犯罪についての講座を担当している新進気鋭の研究者である。北米ではいわゆる Homeless とは住所不定の人、もしくは不特定地居住・放浪の人達だけではなく、精神的にも依るべき家庭のない人達を含めておりかなり広範な対象者となっている。このなかに人数としては、若年もしくは年少の街頭小犯罪、麻薬、売春にかかわる者の構成率が高い。年少者のばあいは、えてして育成環境での父母の愛情関係の破綻、家庭内暴力、飲酒・麻薬暴力等に原因を求めているが、同助教授はかねてから、これらのニューヨーク、トロントでの事例比較を研究されてきたが今回の報告では、トロントにおける同犯罪の実態調査を中心にトピックをすすめられている。以下に報告の概要を記述する。

ホームレス性 (Homelessness) と街頭犯罪の相関関係を若者に求めて行った実態調査をここでは報告するものである。日本の社会的通念では、ホームレスについての概念がきわめて狭義のようである。ホームレス性は、本来は、定住地もしくは定住居を有さないことを云うのであり、ホームレスの者はこれに当るすべてのひとびとを指しているのである。したがって従来からいかなる国や社会においても存在するものであり、単に資本主義の成熟とそれによって生ずる社会的矛盾のはざまにある犠牲者もしくはそうした社会環境への不適応者を必ずしも指すものではない。もっと広義の概念として取扱われるべきものである。今日日本の都市社会では、中年から老人に至るまでの主として男子の街頭生活者を対象としているが、北アメリカ社会

では街頭生活者のみをとりにあげてみたばあい、男女、あるいは若い年齢層が割合として多い。したがってここでは広義にこれを解するものとし、長期間にわたり家族のもとを離脱して特定の住居に依拠せず生活の糧を他人に依存する生活者と考えておこう。生活の糧を他人に依存するばあい、しばしば街頭小犯罪（street crime）及び売春をおこなう場合が多い。後述するように麻薬に係わる犯罪、売春婦として夜に生活を営むものにこれらのひとつひとつが繋がれば、街路の治安に関連する意味で都市の大きな社会問題となる。

北アメリカのソーシャルワーカーによる調査では、1987年に若者で家族から離脱（runaway）したホームレスのひとつとが年間200万人を超えており、“ホームレスネス”の問題は単に貧困や社会への不適応に原因を求めることだけでは解決しえないものとなっている。

この若者たちのこうした状態におち入る動機は、思春期以前から家庭疎外をうけ、虐待をうけ、あるいは暴力・性的対象者とされ家庭から投げ出されて街頭で暮す過程を経ている。

この報告で述べている、基本データは1992年に私達（マッカーシー教授及びヘーガン教授ら）によって調査発表されたものであって、人口300万の大都市トロントの街頭生活者から採集されたものである。トロントにはホームレスの者が1万人から1万2000人いるものと推定されるが、このうち390人の若者を対象として調査されたデータである。

主として、公園で寝起きするもの、街頭の片隅で金銭を乞うものをまず対象とし、それら390名から採集した結果である。またそのデータ収集時に報告者マッカーシー教授の同僚、ヘーガン、ジョン（John Hagan）が行ったトロントにおけるハイスクールの生徒562名のランダム・サンプリングによる“家庭Home”についての意識調査をも併用し、若者の家庭環境を背景として分析に加えた。

“ホームレスネスの状況”

サンプル数390の収集データの条件としては思春期ホームレスとしての対

象者の年齢、性別、家族構成と状況 (Family structure and dynamics), 学校生活の状態を考察し、ホームレスと家庭という関係に力点をおいた。

この対象者は、ここでは13才から19才の者としたが、390名のうち260名(66.6%)が男性となった。

まず対象者の寝起き場所、食物(空腹の状態)、他人との友好関係、援助を求めた状態について表示しよう(表I)。

寝起き場所としては、約半分の50.5%(197名)が街頭のほか友人宅ホテル等と場所が定っていない。日常生活では常時空腹と概ね空腹が55.2%(215名)で食糧調達方法も購入したり友人から割受をうけたり39%(152名)で、同じく定っていない。方法が定っていない、ということは、その時その時の、ぬすみ(bun run)もしくは、食い逃げ(dine and dash)によることが多いからである。これらの生活補給では約半数の51.3%(200名)が福祉に依存している。他方親しい友人数は45.7%(177名)が3人から10人おり、相対的に友人としてあげる人数は多い。

“ 苦悩からの逃避としての麻薬使用 ”

表IIにあげるように延べ数として877名が何らかの麻薬使用の経験がある。うち圧倒的に多い(80%)のがマリファナもしくはハシッシュについてハルシノゲン(54.9%)、コカイン、クラックが42.6%とつづいている。いずれも街頭生活に対する精神的苦痛逃避のための吸飲とされる。なお、麻薬の売り捌き経験としては、マリファナ、ハシッシュが実数で171名、他の非合法麻薬128名、合計延数299名となっている。

“ 犯罪種目と転落 ”

表IIIのように、犯罪としては50ドル以下の物品万引208件が最も多く、さらに50ドル以下の盗み191件となりこれら小犯罪が399件となっておりほぼ全員がこれに当たっている。

また犯罪転落として130名の女性被調査者のうち116名が売春経験を有している。

表I 390名のホームレス生活状況（1992.トロント）

	実 数	構成率 %
寝 起 き 場 所		
ホ ス テ ル	28	7.2 %
友人・親類宅	60	15.4
街頭（バス・電車・駅・公園・ビル内）	41	10.5
ホ テ ル	8	2.1
上記と友人宅 併用	56	14.4
上記と街頭 併用	197	50.5
合 計	390	100 %
空 腹 状 態		
皆 無	93	23.8 %
1、2 度 位	82	21.0
常 時	179	45.9
概ね空腹	36	9.3
合 計	390	100 %
食 品 調 達		
1. 食糧品店購入	10	2.7 %
2. レストラン等	42	10.9
3. 友人依存	23	4.4
4. 寝起き場所・ホテルで	72	18.5
1. ~ 3.	91	24.5
1. ~ 4.	152	39.0
合 計	390	100 %
親 しい 友 人 数		
な し	48	12.1 %
1、2 人	98	25.1
3 人 ~ 10 人	177	45.7
11 人 以 上	67	17.1
合 計	390	100 %
生 活 補 給		
福 祉 依 存	200	51.3 %
その他、なし	190	48.7
合 計	390	100 %

表Ⅱ 麻薬吸飲の状況

麻薬名	延べ数	構成率%
マリファナ、ハシッシュ	312	80 %
ハルシノゲン	214	54.9
アムフェタミン	133	34.1
コカイン、クラック	166	42.6
ヘロイン	50	13.3
合計	875	
麻薬売り捌き	299	

表Ⅲ 物品の盗み等犯罪

犯罪種目等	延べ数	構成率%
5ドル～50ドルの物品の盗み	191	49.0 %
盗品受理	122	31.3
キャッシュカード・クレジットカード不正使用	54	13.8
自動車よりの盗み	104	26.7
50ドル以下の物品万引	208	53.5
50ドル以上の盗み	162	41.5
50ドル以上の物品万引	116	29.7
破壊、侵入、盗み	104	26.7
自動車の盗み	74	19.0
合計	1,135	
転落、自棄等		
売春	116 (130名の女性のうち)	
自殺未遂	107	

“ホームレスネスと犯罪”

この調査はホームレスネスの社会通念の確認にあるのではなく、ホームレスネスと街頭犯罪（street crime）— 盗みと売春、の関係の実態把握にあるのであり、これらの若者が家庭からどのような影響を受けて街頭に飛び出すようになったか。そしてそれがどのような様にして犯罪に結び付いて行ったのであるかの究明にある。ホームレスネスの特徴はすべてたえまのない空腹に襲われ、寝起きする場所の安定と安全を切望していること、更に生活の糧を求めているところにある。調査対象の若者は最低で6ヶ月の間ホームレスの状態にあったのであり、この間、上述の空腹、居住の安定性、生活費の不安の中で生活を続けている。この状態の中で大多数は麻薬を吸飲し、犯罪に傾いてゆく。生活と個人的な逆境に抵抗すること自体が、犯罪に傾いてゆく結果となっている。

背景には家庭内のいざこざ、本人に対する両親ないし片親による疎外、もしくは虐待、性的虐待、遂いには本人による自発的家庭離脱（家出）よりも、その様にさせる家庭側の仕打ち（ほうり出し）による結果が圧倒的に多いといえる。